

学力向上を目指し学校全体で取り組む授業改善

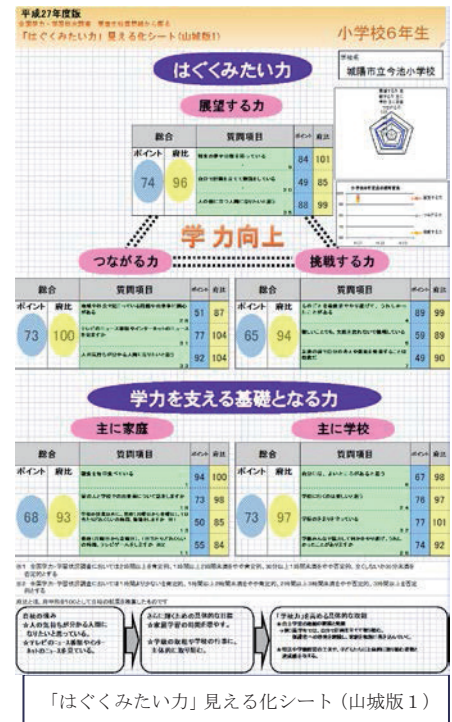
城陽市立今池小学校

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

国語Bにおいて、特に「読む能力」が全国平均を上回った。文中の言葉を使って要旨をまとめる問題が、全国平均を12ポイント余り上回っており、これは数年前から「書くこと」に力を入れて国語科の授業研究を積み重ね、書いたことを伝え合う学習に発展させてきた成果であると考えられる。

算数は、A、Bともにほとんどの領域で全国平均を上回った。その中で、特に算数Bにおいて、記述式問題が大きく全国平均を上回っている。これは、求め方を説明したり、理由を記述したりする活動を積み重ねてきた成果であると考えられる。

質問紙から探る「見える化シート」からは、本校児童はテレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見ていることが分かった。普段からニュースに興味を持ち自分の考えを持つことが読む能力や書く能力の向上につながっていると考えられる。



全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

授業における取組

1 本校児童の実態を受けて設定した授業実践の目的

(1) 児童の実態

- ・読書量が少ない
- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することが苦手
- ・自分でじっくり考えて答えを導くことが苦手
- ・家庭学習の時間が少ない
- ・難しいことがあると挑戦せずにすぐにあきらめてしまう

(2) 授業実践の目的

- ・子ども同士が関わり合う授業作りを目指し、自ら考える力を高め、基礎的な学力の定着を図る。
- ・気持ちを伝え合う授業を目指して授業改善に取り組む。

2 学校全体で実践した内容

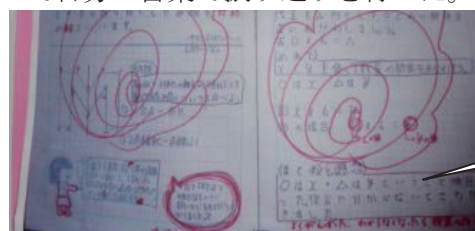
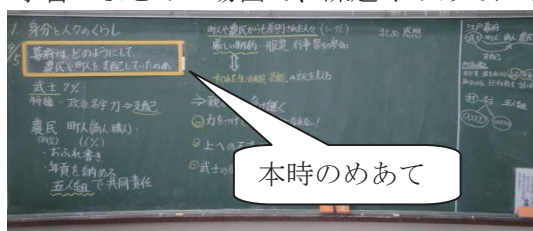
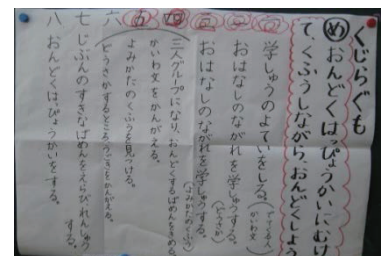
(1) 単元学習計画を提示

児童に分かりやすく視覚的に提示することで学習の見通しを持たせ、ゴールを意識させながら授業に臨むことができた。

(2) 学習のめあてと振り返り

各学級に小黒板を配布し、毎時間のめあてを示すことを徹底し、学習のまとめの場面で、課題やめあてにそって自分の言葉で振り返りを行った。

「くじらぐも」音読発表会に向けた8時間の学習計画



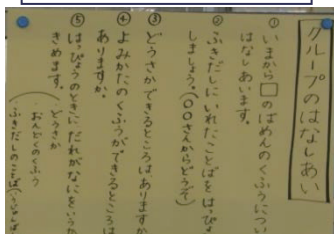
(3) 話し合い活動を取り入れた共に深め合う授業の工夫

- ・話し合い活動に入る前に、児童が一人でじっくり考える（自分の考えをもつ）場を設定し、個の力を高め、交流により考えを「伝え」「比べ」「深める」ことを大切にしてきた。
- ・低中高と発達段階に応じたコミュニケーション系統表を示し、3、4名のグループでの話し合い活動を低学年のうちから積み上げてきた。
- ・話し合い活動では、司会を決めて交流したり自由に動き回って交流したりと、その場面に適した活動を取り入れてきた。

3名による話し合い活動の様子



話し合いの手順



考えを深め合うための手立て

1. 自分の考えと比べながら、友だちの考えを聞く。
質問する。
2. 友だちの意見と比べながら、自分の意見を伝える。
3. 友だちの考えのよさに気付く。
4. 自分の考えを見直し、修正する。

3 工夫や改善した点

徹底的な授業研究

全教員で一つの授業について事前研修や事後研修を行い、成果と課題を明らかにすることで、次のステップへとレベルアップを図る研究を行ってきた。

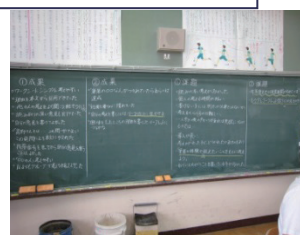
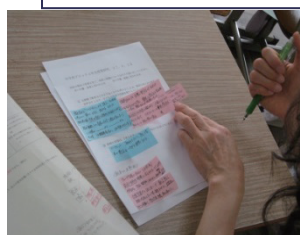
研究授業 全員参観の様子



全教員による事後研修



付箋使用や黒板書き出しによる成果と課題の明確化



授業以外の取組

1 自主学習の取組

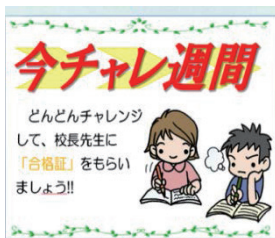
家庭学習の時間を確保するとともに、高学年では自分で計画を立てて取り組むことを目的とする自主的な学習をする取組。保護者への啓発も込め、ノートに保護者からのコメントをもらうことを約束とするなど、家庭を巻き込む取組にしている。

2 今池漢字検定

年2回、全校で漢字検定を行い、90点以上を合格とし、合格するまで何度もチャレンジして、漢字の定着を図る取組。

3 今池チャレンジ

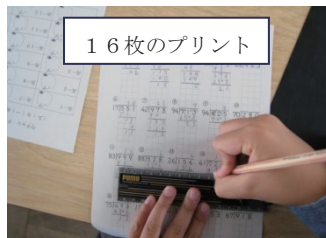
算数の基礎・基本を身に付けさせるため、全校で朝学習や休み時間に16枚のプリントにチャレンジする取組。今池チャレンジ週間は、友達と教え合ったり分からないところは先生に聞いたりしながら全校が算数一色になる。全部合格すると、校長先生から合格証がもらえる。



棚から問題を取る



16枚のプリント



丸付けの様子

